

「アクティブ・フライデー」の実施で創造的活動時間の確保と多忙感を解消！

◆ 所属・提案者（◎代表者）

和光市立本町小学校

◎丸山 陽平

ねらい

本校は児童数 269 名、学級数 11 の小規模校で、駅周辺の高層住宅群の中にある。保護者の教育への関心が高く、多くの児童は、習い事等放課後の活動が充実している。しかし、学年が上がるにつれ、下校時刻が遅くなり、習い事以外の放課後活動（遊び）が困難な状態になっていた。学力面では全国・県の平均を大きく上回っているが、体力面では課題が多くあった。

本校は小規模校であるため職員一人一人の担当する校務分掌は多い。クラス数も少ないため、勤務時間内は、学級事務等の仕事よりも、全体に関わる内容（会議・打ち合わせ・提案文書作り等）が優先される。学級に関わる仕事や教材研究等は、一人で行える内容は、勤務時間後に行われることが多い。加えて、子育て世代、親の介護世代の教職員も増えてきているため、勤務時間外での仕事は困難を極め、持ち帰り仕事や休日出勤で対応するなど、恒常的多忙感に陥っている。

質の高い学校教育を推進するためには、創造的活動の時間を確保しながら、多忙感を解消できる仕組みを整備する必要があった。

そこで、「教員の働き方改革、多忙感の解消、教員一人一人が勤務時間内での自らの質を高める創造的活動の時間の確保、授業の質の向上、児童の学力向上、体力向上等、学校教育の質を高めること」をねらいとして、本実践を行った。

実践内容

- ① 毎週金曜を特別日課（資料 1）とし、児童の下校時刻を 35 分早める。
- ② 放課後は、研修や会議は行わないものとする。
- ③ 学力向上支援教員（市費：主に中学年の算数 TT 担当）が火・水・木に行っている放課後算数教室（通常 20 分間、ドリル学習中心）を、金曜日は算数的活動を取り入れるなどして 30 分間行う。
- ④ 定時退勤を推奨する。

実践時期・期間

平成 29 年 4 月 10 日～

【成果】

- 金曜日の放課後の時間を、以前よりも 45 分間多く、確保することができた。
- 今年度より市内で勤怠管理システムを導入し、在校時間調査を行っている。
1 学期の授業日（4/10～7/21）までの全職員の記録を分析したところ以下のような結果となった。
- ノー残業デーと比べると、アクティブ・フライデーの方に効果が見られた。制度ではなく物理的に時間を確保することで、業務改善につながっている。
- 一番最後に退勤する教員の退勤時刻を比較した際、金曜日は他の日よりも、約 1 時間早く退勤できていることがわかった。
- 土日に出勤する教員が減っている。
- 全体的に児童の体力向上が見られた。
（新体力テスト昨年度比）

実践の成果や課題

期間 H29 4/10～7/21	全教職員	内訳			
		管理職	学級担任	担任外	
平均退勤時刻	月～木 18:56 水（ノー残業デー） 18:47 金（アクティブ・フライデー） 18:23	19:12 18:55 18:28	19:28 19:20 19:12	18:10 18:07 17:31	
平均在校時間と効果	平日（月火木曜日）の平均在校時間	1時間56分	2時間12分	2時間28分	1時間10分
	水曜日（ノー残業デー）の平均在校時間	1時間47分	1時間55分	2時間20分	1時間07分
	金曜日（アクティブ・フライデー）の平均在校時間	1時間23分	1時間28分	2時間12分	0時間31分
	ノー残業デーの効果 平日と水曜日の退勤時刻の比較	-9分間	-17分間	-8分間	-3分間
	アクティブ・フライデーの効果 平日と金曜日の退勤時刻の比較	-33分間	-44分間	-16分間	-39分間

【課題】

全体的にはアクティブ・フライデーの実施により、退勤時刻が減っている。しかし、学級担任の退勤時刻は減ってはいるものの担任外等に比べると減少率は小さい。学級担任の業務改善と公平負担を考えていかなければならない。

平成29年度 本町小学校 日課表・週行事

通常	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	特別日課	
8:30	学年学級タイム	朝会	朝の読書	朝自習	朝の会	朝の会	8:30
8:40	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会		朝の会	8:40
8:50	1	1	1	1	1	8:40	
9:35					5分休み	9:25	9:25
9:40	5分休み					9:30	9:30
10:25	2	2	2	2	2	10:15	10:15
10:45	25分休み (予鈴10:45)				20分休み (予鈴10:30)	10:35	10:35
10:50	3	3	3	3	3	10:35	10:35
11:35					5分休み	11:20	11:20
11:40	5分休み					11:25	11:25
12:25	4	4	4	4	4	12:10	12:10
13:10	給食 12:25-13:10				簡単そうじ 12:10-12:25	12:25	12:25
13:15	はみがきタイム(5分)				給食	13:10	13:10
13:50	そうじ(20分間)~13:35				はみがきタイム 学習準備(予鈴13:15)	13:20	13:20
13:55	昼休み(予鈴13:50)				5	13:20	13:20
14:40	5	5	5	5	12年生 帰りの会	14:05	14:05
14:45	帰りの会	6	6	帰りの会	3~6年生 帰りの会	14:10	14:10
15:30	職員集会 毎週15:10			クラブ(4.5.6年) 委員会(5.6年)	クラブ 60分で実施	アクティブ フライデー	14:55
15:45	職員会議 校内研修	帰りの会	帰りの会			15:10	15:10
15:55							
下校時刻	14:55	1年:14:55 2-6年:15:45	1-2年:14:55 4-6年:15:45	1-3年:14:55 クラブ:16:00 委員会:15:45	1-2年:14:20 3-6年:15:10	1-2年:14:20 3-6年:15:10	
朝会	第1週目 全校朝会	第2週目 体育朝会	第3週目 児童朝会	第4週目 音楽朝会			

1.2年
14:20
下校

3-6年
15:10
下校

失敗しないための方策

金曜日に会議や研修を入れないことである。組織で動くことは、重要なことであるが、そのための会議等が事務作業を増加させ、学級事務や教材研究や自己研鑽の時間が減り、それらを勤務時間外に行うことにもなる。これが多忙感につながるため、アクティブ・フライデーの放課後は、個人が学級のために使える時間として確保する。

他校で導入するポイント

○交通指導員の勤務の関係

児童の下校時刻が金曜日だけ変わることを交通指導員さんへ伝えておく必要がある。

○給食調理員との勤務の関係

特別日課の場合、4時間目が通常よりも早く終わり（12：10）、給食の時間帯が金曜日だけ早くなってしまう。下準備等早めることは、勤務の関係上難しいので、4時間目終了後に簡単清掃を行い、その後通常通り（12：25）に給食の準備にする。そうすることで、特別日課の日も通常通りに行うことができる。

勤務を減らすという意識ではなく、創造的時間を確保するというコンセプトを理解してもらい、その中で、業務改善や効率化の為、技術を身に着けるなど、自らのスキルを高めるための時間に充てることを意識してもらう。

セールスポイント

- 業務に緩急をつけることで恒常的多忙感解消につながる。
- 就業時間内に、個人が使える時間を確保でき、業務に埋没することなく、自らを高める時間として扱うことができる。
- 休日出勤と在校時間が減少する。
- 毎週金曜日に特別日課を実施しているため、他の曜日に特別日課があった場合も慣れているため時間帯で混乱する事が起こりにくい。
- 金曜日に出張がある場合も、児童を下校させてから出張に行くことができるため、自習課題の準備やその処理の時間がなくなる。

こうすればより高い効果が得られる方策など

働き方に慣れてきたら、自己研鑽のために、校内でサークル的な学習活動を実施できるとよい。校内には、多才ないろいろな教員がいる。ちょうど、1コマ（45分）分の時間を確保できるため、教材作り、ICT機器の活用など、今自分が知らないこと、できないことができるようになる場、「先生による先生の為のクラス」を任意参加で月に1回ほど開催できると、教える側も教わる側もモチベーションが高まり、学校教育の質を高めることに効果を発揮すると思われる。

外部有識者からのコメント

- 金曜日を特別日課にするという、どの学校でも簡単に取り組み、週末の設定なので教職員にも気持ちの余裕があってよい。
- アクティブ・フライデーがノー残業デーと異なるのは、枠組みとして時間を確保しており、お墨付きを得た勤務時間の量的調整によって業務改善の効果を示している。一方、生徒指導などに関わる活動などについて、量的に測ることのできない対児童の教育活動の充実といった質的な面での改善も同時に意図されなくてはならない。